

テーマ

いかなる状況下においても、命を守る術を身に付けた児童の育成
～東シナ海沿岸での地震・津波を想定した避難訓練を通して～

鹿児島県南さつま市立大浦小学校

(2) 避難訓練の実際

I 学校の概要

本校は海拔 5.5m で沿岸から約 2 km の場所に位置している。

本校では、集団下校訓練（4 月・1 月）、不審者対応避難訓練（6 月）、緊急時引渡し訓練（9 月）、火災避難訓練（10 月）を実施している。

II 避難訓練の取組の概要

1 取組の内容、方法等

- (1) 地震に伴って津波が発生した場合の学校現場における安全管理を徹底し、災害時の被害を最小限にとどめるため、避難経路や緊急時の対応の仕方の確認と安全点検を実施する。
- (2) 東日本大震災を教訓にした教材を活用し、津波のメカニズムや避難の仕方等の知識の定着を図るとともに、児童、職員の防災意識を高める。

2 避難訓練の内容とねらい

- (1) 高台への避難経路を確認することと東シナ海沿岸で地震・津波発生時に迅速に避難する行動を身に付けることができるようにする。
- (2) 地震・津波発生時における避難方法や係分担を明確にし、職員が適切に行動できるよう体制の構築を見直す。

3 避難訓練実施までに工夫したこと

昨年度までの避難経路を見直し、川沿いの道路から川の逆流の危険を回避できる道路に変更した。変更する際には市担当課に指導助言を依頼した。

4 避難訓練の状況

- (1) 地震・津波発生時の避難訓練の実施
ア 開催期日 令和 4 年 2 月 24 日
イ 参加者 全児童



【高台へ3次避難をする様子】



【津波のメカニズムについて学習する様子】

5 取組の成果と課題

(1) 成果

津波発生時には、いち早く避難する必要があることを、児童・職員共に自覚し避難訓練に真剣に取り組んでいた。また、避難経路の変更について、新たな課題がないことを確認できた。

(2) 課題

本校は海拔 5.5m で沿岸から約 2 km の場所に位置しているため、短時間で津波が到達することも想定される。

場合によっては、垂直避難など、状況に応じた避難行動が取れるよう指導をする必要がある。